

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	一般小売店〔生花〕（店長）	来客数の動き	・近くに大型店舗がオープンしたため客が多少増えている。	
	やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・気候が温暖になり、少しずつ年配の方が外に出る傾向にあり、それに付随した商品が動いている。	
		商店街（代表者）	お客様の様子	・中年以上の客の中では、ベイオフの関係もあり、貯金を崩しても生活を楽しまうという態度が見受けられる。	
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・来客数は減っているが、1人当たり買上単価が大きく上がってきた。特に高額品のジュエリー関係、ブティック関係の動きが良くなっている。	
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・高額品の動きが多少良くなっている。	
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・近くに競合店となる大型商業施設が出来たにも関わらず、当店の売上は昨年並をキープしている。客の財布のひもが緩くなっている。	
		スーパー（店長）	単価の動き	・食品関係、特に惣菜関係が好調であり、物によっては買上単価が100円ほど上がっている。また、衣料品についても、カッターシャツや肌着が、以前のように500円の低価格なものだけが売れるのではなく、1000円、1500円のものまで売れている。	
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・商品単価にあまり変わりはないが、1人の客の買上点数がここ1～2か月は上昇傾向にある。	
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・客単価は下がっているが、売上、来客数ともに前年を上回っている。閉鎖した大手スーパーの圏内だけではなく、全体的に売上増の傾向にある。	
		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・全体的に客の出足が多くなっており、セール以外の催しを行なっても、かなりの集客があった。販売量が多くなっている。	
		衣料品専門店（経理）	販売量の動き	・高額商品を買う客が多くなっている。	
		家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・今年に入り、パソコン等の売上がやや底を打った状態で推移している。加えて、プラズマテレビや液晶テレビの人気が高い。	
		都市型ホテル（副支配人）	来客数の動き	・個人の客の動きがやや上向きになっている。	
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・ゴールデンウィークを控え、国内海外ともに、人員ベースでは前年を10ポイントほど上回っている。安近短の傾向が強く、国内はTDLやUSJ、海外は韓国が多い。また、ゴールデンウィークの駆け込み購入者が多く、出発間近まで申し込みがある。	
		競輪場（職員）	単価の動き	・4月に入り来客数は減っているが、販売額は減っておらず、1人当たりの買上単価が増加している。	
		美容室（店長） 設計事務所（所長）	お客様の様子 競争相手の様子	・店売品が少しずつ売れるようになっている。 ・競業企業の多くが公共工事等で仕事をもらい、景気が良くなっている。	
		変わらない	商店街（組合職員）	お客様の様子	・客は食材、生鮮食料品ですら慎重に買物しており、無駄なものは買わない傾向にある。
			商店街（代表者）	来客数の動き	・郊外大型店が相次いで閉店し、その分一時的に中心部に客が集中している。
			百貨店（営業担当）	お客様の様子	・気温が高めに推移したこともあり、春物プロパー商品の売上が落ちている。買上単価は若干上がってきているが、来客が減少している。
			百貨店（営業担当）	単価の動き	・依然として食料品などの1品単価や客単価の減少が続いている。
百貨店（営業担当）	販売量の動き		・売上の的には前年比103～105で推移しており、決して悪いとは言えないが、気温の上昇に伴い、単価の安い夏物商品が動き始めている。		
百貨店（売場担当）	来客数の動き		・客単価はややアップ、一品単価はややダウンしている。来客数や購買客数も減少している。		
百貨店（業務担当）	お客様の様子		・春先に見られるギフト商材の需要も大幅に低下している。		
スーパー（店長）	単価の動き		・客数の増加はあるものの、客単価が200円程落ちている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・客の購買の様子が、日用品、買回り品については非常に慎重であり、趣味や娯楽用品についてもニーズが非常に少なくなっている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・春の新生活や新社会人を含め、いくつかのキャンペーンを行ってきたが、あまり効果が出ていない。客数、客単価ともに前年を下回り、売上が鈍化している。また、客は不景気のせいか必要な商品以外は買わなくなっている。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・単価や客数は以前と変わらず、家庭の主人の小遣いが増えていない。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・客数はほとんど変わらないが、客単価が少し落ち込んでいる。2～3年前と比較すると、1人当たり20円から30円の落ち込みである。
		コンビニ（販売促進担当）	来客数の動き	・学生中心のコンビニは、曜日毎の売上が安定しているが、他のコンビニでは弁当の売上予測ができず、発注が難しい状態である。客の出入りのバラツキが大きい。
		乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・100万円位の新型車の導入で、客の動きは少しは動いているようだが、単価が安い車のため利益が取れていない。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・客の購買価格は依然として低価格帯が多い。
		その他専門店〔医薬品〕（従業員）	単価の動き	・客数はやや上向きであるが、客単価は全体的に下がったままである。しかし、必要なものであれば高額な商品でも買う様子も見受けられる。
		観光型ホテル（支配人）	お客様の様子	・宿泊単価を含め、1日に使用する料金が前とあまり変わっていない。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・客の動向は横ばい状態であるが、単価が安いものに移行しがちで、利益が少なくなっている。
		タクシー運転手	単価の動き	・人の動きは若干良くなったが、単価が下がっているため全体的にはあまり変わらない。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・失業者し、再就職できないという客が増えている。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・ブロードバンド系の商品の動きが良くなっているが、全体としては変わらない。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・観光施設については、昨年に比べ入園者数が3000名ほど増加し、売上も多少増えているが、ゴルフ場は依然として厳しい状況にある。
		パチンコ店（店員）	競争相手の様子	・地区内に競合店が進出してきており、全体的に客が減少し、店だけが増えているような状況である。
		設計事務所（職員）	販売量の動き	・新築件数が減少しており、厳しい状況は変わらない。
		設計事務所（社長）	お客様の様子	・客から仕事に関する連絡が少なくなっており、電話の本数が少なくなっている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・住宅の着工数が減少している。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街には独自の駐車場がなく、最近では駐車違反の取締も厳しくなっているため、客が近寄らなくなっている。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	単価の動き	・来客数が減り、客単価も低下しているため、期待通りの売上に至っていない。
		一般小売店〔青果〕（店長）	競争相手の様子	・最近、近くにスーパーが新装オープンし、客がそちらに流れている。
		百貨店（売場主任）	競争相手の様子	・大手スーパーの閉鎖に伴い、関連取引業社の倒産が相次ぎ、小売業全体がパワーダウンしている。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・ある程度天候に恵まれ、来客数は増加したものの、買上率（レジ客数/来客数）が前年を下回っている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数が減っているうえ、滞留時間も短くなっている。
		乗用車販売店（社長）	お客様の様子	・若年層の動きが非常に悪い。
		タクシー運転手	来客数の動き	・客数が前と比べると4～5%落ちている状況で、常連客がかなり減少している。また、病院への行き帰りにタクシーを利用する客が減っている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・県外からのビジネスマンや観光客の利用がかなり減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信会社(業務担当)	単価の動き	・携帯電話の新規契約が後回しになる傾向にある。また、価格の上昇もあり買替えサイクルが1年から1年半に伸び、販売台数も落込んでいる。
		テーマパーク(職員)	来客数の動き	・宿泊部門が落込んだため、これから夏に向けて新プランを打ち出しているところである。
		住宅販売会社(常務取締役)	お客様の様子	・一戸建て住宅の動きは鈍く、契約が低調に推移している。マンションにおいても、月ごとに来客数が減少している。
		住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・不動産業だが、客の予算が下がってきている。客は予算以上の商品は買わない傾向にある。
		住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・雇用不安等により、客が住宅購入を決めるまでの時間が長くなっている。
	悪くなっている	スーパー(店長)	来客数の動き	・当社は民事再生法の適用を受け、商品は入ってきたが、客への印象が悪く、来客数は平日で200~250人の減少となっている。
		その他専門店[ガソリンスタンド](統括)	販売量の動き	・来客数はそれほど変わらないが、とりあえず10リットル、20リットルというように量を限定する客が増えている。
		一般レストラン(スタッフ)	単価の動き	・今月に入り、急に単価の減少幅が大きくなっている。夜よりもランチタイムに客が集中している。
		住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・資金的に厳しい人が多くなっている。融資条件で拒否される方がよく見受けられる。
	企業動向関連	良くなっている	電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き
やや良くなっている		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量が増加してきたが、業種別ではまだ明暗がある。
		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・今月辺りから半導体の動きに伴い、生産量が増加している。
		精密機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・新規引合いや受注量が少しずつ増えてきている。
		輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・中旬以降、食料、飲料など、全体的に出荷量が多くなっている。
		その他サービス業[物品リース](従業員)	それ以外	・取引先を含めた周囲の受け止め方から、底打ちの気配を感じている。
変わらない		農林水産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・本来なら春の行楽シーズンを迎え、かなりの消費が期待されるところだが、食品メーカーの牛肉偽装事件による不信感から思った程伸びていない。
		輸送用機械器具製造業(経営者)	競争相手の様子	・同業他社の動きを見ていると、ある程度の受注を抱えているようだ。
		建設業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・特に官庁工事においては、予算の縮小、競争激化から受注が厳しくなっている。民間工事においても受注単価が引き下げられ、苦戦を強いられている。
		建設業(営業担当)	取引先の様子	・今までは新規情報が医療福祉関係に偏っていたが、現在は各方面の職種に情報が上がるようになっていく。
		輸送業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・半導体関連は回復し、出荷が増えてきたが、他の商品の荷動きは依然として悪い。特に最近倒産した大手スーパーなど大型店に出荷していた商品が落込んだままである。
		金融業(調査担当)	取引先の様子	・商品の売れ筋、売上高の変動が非常に大きく、企業では業績改善が全く見られないところが多い。
やや悪くなっている		窯業・土石製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・窯業業界は毎年、夏場にかけて受注状況が悪くなるが、今年は受注減少が来るのが特に早い。
		建設業(総務担当)	競争相手の様子	・県内大手の土木・建築業社が従業員50人をリストラしたなどのうわさが絶えず流れている。
悪くなっている		農林水産業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・暖冬の影響で関東地区の農産物の出荷が早まっており、九州地区の農産物の価格が下落している。
	繊維工業(部長)	競争相手の様子	・周りの縫製工場で閉鎖する工場が続いている。	
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・半導体業界からの派遣要請が増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・佐賀所管内の雇用情報収集表によると、企業状況の「やや厳しい」「厳しい」の割合が3か月前と比較して低下傾向にある。
		民間職業紹介機関（支店長）	周辺企業の様子	・ユーザーからの紹介が、前年同期と同じくらいに持ち直してきた。
変わらない		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求職者数は依然として高いが、それに比べ、求人数はまだ少ない。
		人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・派遣のオーダー期間が、短期・単発のものが中心となり、長期のものが極端に少なくなっている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人材派遣の注文数が少なく、受注単価も依然として低い。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	求人数の動き	・求人数は依然として中途、新卒とも増えておらず、企業が採用に慎重になっている。
やや悪くなっている		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・福岡では特にビジネスホテルで一層過当競争が激しくなっており、アルバイト採用でも慎重になっている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・製造業においては、主力の電機機械器具製造業の生産が上向きで、新規求人も電子部品の製造・検査の業務請負等を中心に増加の傾向にある。しかし、全体の求人数では、前年比マイナス幅が縮小した程度である。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・小規模事業所からの事業主都合による離職者が目立ってきている。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求職者数の動き	・特に40代から50代の男性の求職者が増えている。
悪くなっている		職業安定所（職員）	求人数の動き	・全産業で求人数が減少している。特に製造業について顕著であり、IT関係の求人が大幅に減少している。